

科目名	高次脳機能障害学Ⅱ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 患者さんに検査を実施していくうえでの心得を身につける 各検査を手順どおりに実施できる。検査結果を元に基本的な評価を行うことができる								
【実務者経験】 言語聴覚士として病院に勤務、失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害・音声障害・発達障害のリハビリテーションに従事経験。								
【授業全体の内容の概要】 高次脳機能障害についてより具体的な内容を理解し、評価法についての基礎知識と検査バッテリーおよびそれらの実施法を知ることができる								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 各検査が何のために行うのかを理解し、手順どおりの実施ができる。また、結果と高次脳機能障害を結び付けて考えることができる。患者さんに対する声かけや態度などを身につけることができる								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	検査の目的や取り組み方、評価選定について説明できる						教科書等	
2	簡易検査をもちいて実際に演習を行い、結果をまとめる（HDS-R、MMSE-J等）						教科書、スライド資料、検査道具	
3	peper patientを基に簡易検査を実施し結果をまとめる						教科書、スライド資料、検査道具	
4	知能検査について実施と説明ができる（WA I S）						教科書、スライド資料、検査道具	
5	知能検査について実施と説明ができる（RCPM, コース）						教科書、スライド資料、検査道具	
6	遂行機能の検査について実施と説明ができる（B A D S）						教科書、スライド資料、検査道具	
7	記憶の検査について実施と説明ができる（S-PA、RBMT）						教科書、スライド資料、検査道具	
8	記憶の検査について実施と説明ができる（WMS-R）						教科書、スライド資料、検査道具	
9	失行、失認の検査について実施と説明ができる（SPTA）						教科書、スライド資料、検査道具	
10	前頭葉機能の検査についての実施と説明ができる（FAB）						教科書、スライド資料、検査道具	
11	視空間認知の検査について実施と説明ができる（VPTA、BIT）						教科書、スライド資料、検査道具	
12	注意機能の検査について実施と説明ができる（CAT、TMT）						教科書、スライド資料、検査道具	
13	情報収集、スクリーニング検査について説明できる						教科書等	
14	スクリーニング検査を作成することを通して必要な内容を理解する						教科書等	
15	作成したスクリーニング検査をお互いに行い、FBができる						教科書等	
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚療法 高次脳機能障害学 第3版』医学書院 『高次脳機能障害ポケットマニュアル 第4版』医歯薬出版 『病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版』MEDIC MEDIA								
【準備学習・時間外学習】 実施した検査については、各自道具を使用しながら手順を確認してください。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。								